企画・製作＝未整征株式会社 TEL.03-5524-6131

―橘　三朗―

企業の志魂（こころ）

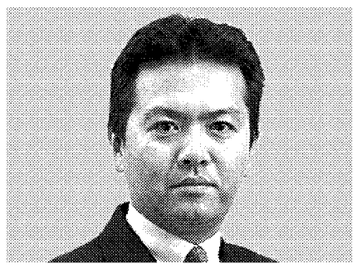
2013年 会津藩と幕末・明治の偉人譚

歴史に人あり　人に志あり　企業に魂あり

嘉永6年（1853年）、マシュー・ペリー率いるアメリカ東インド艦隊の4隻の軍艦が浦賀沖に姿を現した。煙突からもうもうと黒煙を吐き、風がなくても波を蹴立てて進んでいる。その蒸気船の威容に色を失った幕閣は、翌年には「日米和親条約」に調印。アメリカからの圧力に屈した幕府の弱腰に対する批判が諸藩から沸きあがった。特に各藩の下級武士による行動は苛烈を極め、やがて「尊王攘夷運動」へと発展し、日本国内は一気に幕末動乱期へと移行。諸外国との交わりが深くなると、その運動は倒幕へと変容していったのである。

薩摩の西郷隆盛、大久保利通、長州の木戸孝允、高杉晋作、土佐の坂本龍馬ら、まるで新しい時代から呼び寄せられるように表舞台に立った若い志士たち。一方、徳川家への忠節を藩主、藩士、婦女子までが頑なに守り、遂には朝敵の汚名を着せられてもなお戦い続けた会津藩の人々。彼らは自らの行動に胸を張って、堂々と生きたのである。敗れざる者の気概は明治政府となっても時代が求めた。

会津籠城戦でスペンサー銃を手に勇敢に戦った山本八重は、「幕末のジャンヌ・ダルク」と呼ばれ、後に新島襄とともに同志社大学の運営に尽力。明治の女性教育の先覚者となった。また兄の覚馬は失明という悲運に見舞われながらも、遷都によって荒廃した京都を再建した立役者の一人となっている。会津藩の人たちは敗れてもなお、青空のような清々しさで新しい時代を受け入れて、国づくりに貢献した。21世紀を生きる私たちも、そんな“東北魂”を心から応援したいものだ。「がんばろう東北」と声高らかに。

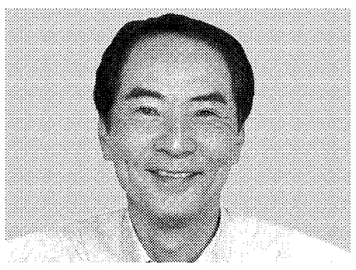


日本開閉器工業㈱

代表取締役社長　大橋　智成　氏
神奈川県川崎市高津区子母口1・5・1

島津斉彬（しまづなりあきら）は視野を世界に向けていた開明派大名の筆頭。日本は早急に近代化を図るべきだと考え、『集成館』（大工場）を創立、反射炉などを築いた。そこでは大砲を始め、ガラス、陶磁器、アルコール、火薬の製造から電信、ガス、電気の実験までも行ない、殖産興業政策を推し進めた。

「世界一のスイッチメーカー」を目指し、既にその高い品質、技術力と『NKK』のブランドはアメリカ、ヨーロッパ、中国など、世界中に知れ渡っている。だが同社の真骨頂は事業拡大よりも、専門分野に特化し、差別化された特長ある企業である点だ。昭和28年設立以来の歴史、信用とたゆまぬ進化こそがその推進力。

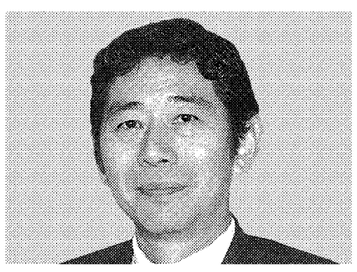


㈱ポンパドウル

代表取締役社長　三藤　達男　氏
神奈川県横浜市中区元町4・171

高杉晋作（たかすぎしんさく）は吉田松陰から「予事を議するに暢夫（晋作）を引て之を断ず」とまで評された松下村塾きっての快男児。なにかを決するときは、晋作の意見に従うという松陰の信頼を裏切ることなく、奇兵隊の創設や武器の調達など既成概念を払拭し自由な発想で長州藩を倒幕の中核にした。

「最高のパンを、最高の場所、最高のサービスで」をコンセプトに、東北から九州まで直営店舗を運営。焼き立ての美味しさを実現すべく各店舗にパン工房を併設する〝一店舗一工房制〟を採用し、看板商品のフランスパンは最高のコンディションで売り場に並べるこだわりだ。既成概念に捉われない自由な発想が伸展の源。

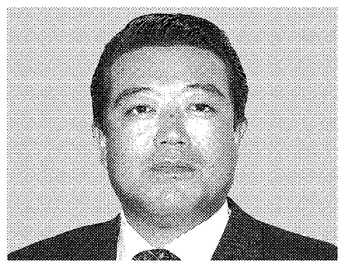


メルクロス㈱

代表取締役社長　西川　宗行　氏
東京都中央区日本橋本町1・9・4

吉田松陰（よしだしょういん）は長州藩藩校・明倫館の兵学教授。幼少時より並外れた学識を持ち、藩主・毛利敬親の御前講義を務めた。江戸遊学中、佐久間象山塾に学び黒船来航に衝撃を受け、海外渡航を企てるが失敗。萩で松下村塾を開き若き長州藩士たちを育てる。明治維新の起爆剤となった逸材だ。

安土桃山時代の〝近江商人〟がルーツのビジネス・コーディネーターであり、衣食住すべてにまたがる幅広い領域で事業展開。問屋としてはもとより、企画提案力と調達能力を活かして多くの独自商品を世に送り出している。四百年以上にわたり受け継いできた「先義後利」の心が、並外れた歴史を紡いだ要因といえよう。

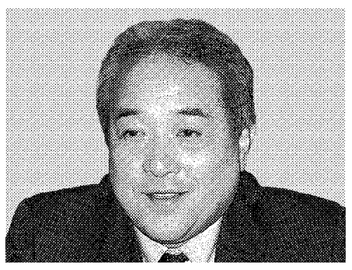


㈱JSS

代表取締役　倭文　浩樹　氏
東京都台東区下谷1・6・5

西郷隆盛（さいごうたかもり）は下級武士から維新の中心人物へと大躍進した薩摩藩の英傑。禁門の変では絶体絶命の危機にあった会津藩を持ち前の武力によって長州藩から救い、山本覚馬らに「薩摩は強い」と印象づけた。のち東征軍参謀として辣腕を発揮し、明治新政府の原動力となって活躍した。

速さと精巧さの追求と実行を意味する造語『速巧』を社是に掲げ、設立以来目覚ましい成長を続けてきている警備業界の英傑企業。多様化する事件事故に対応すべく警備システムをアレンジし、知識と技術の向上に余念がない。大手企業がひしめき合う業界にあっても、「JSS強し」の印象と評価が定着しつつある。

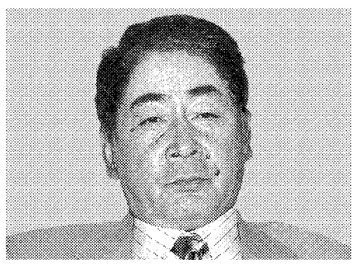


ファーストゲート㈱

代表取締役　土肥　猛　氏
東京都台東区下谷1・13・6

大村益次郎（おおむらますじろう）は幕末の兵法学の第一人者。上野戦争で討伐軍総司令官を務めた。彰義隊の攻撃には夜戦を避け、日中の攻撃をと主張。そして黒門口、団子坂、本郷台からの三方攻撃を基本とした戦略を編み、諸軍を各所に配置し勝利に導いた。長州の諸葛孔明と呼ばれたゆえんである。

半導体商社として広く世界に革新技術を求め、また半導体製造装置メーカーとして自社技術への飽くなき挑戦を続けている多面派企業。FAST（早い）とGATE（道）を社名の由来とし、各関係先企業のニーズを素早く適確に捉えるからこその信用だ。社員一人ひとりも能力を発揮して、社内体制もすこぶる明るい。

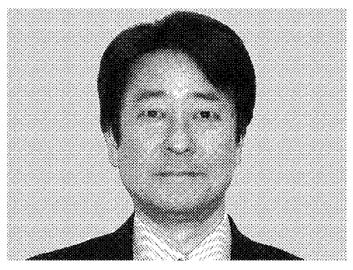


㈱アート

代表取締役社長　駒形　松雄　氏
東京都品川区東五反田1・25・11

黒田清隆（くろだきよたか）は箱館戦争時の総督府参謀。榎本武揚から贈呈された『海律全書』に感動し、有為の人材の助命嘆願に心血を注いだ。降伏前夜、五稜郭に清酒五樽とマグロを五本を贈った千載の美談は有名だ。北海道平定の功績によって開拓次官、のち参議兼開拓長官となり多大な足跡を残した。

創業は1976年と草創期から業界をリードしてきた開拓者企業。国内各地のインテリジェントビルで最先端の出入管理システム「V－LINE」が採用され、防犯性と信頼性の高いシステムが好評だ。オフィスや住宅、各種公共施設に先進的なセキュリティシステムを提供するなど、多大な足跡を残している。

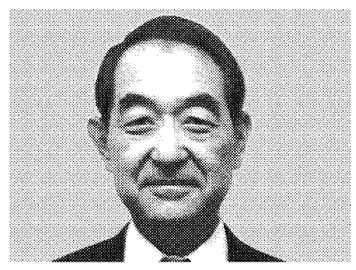


国際化JP㈱

代表取締役　末廣　陽一　氏
東京都立川市柴崎町2・9・25

大久保利通（おおくぼとしみち）は盟友・西郷隆盛とともに、薩摩藩を維新回天の中心として躍動させた立役者。時代を先読みする冷静な判断力、信念を貫く意志の強さは幕末群雄の中でも際立っていた。岩倉具視らと王政復古の政変を実現し、新政府においても近代化政策の中核的役割を果たしている。

ソフトウェアの国際化を通して、世界中の言語や文化・習慣のそれぞれを尊重しつつ、豊かなグローバル社会の構築を目指す先読み企業。個々の地域化対応『Localization L10N』の作業を可能な限り少なくし、共通の汎用的な部分ができるだけ多くなるように設計し開発していく。国際化で取引先を世界へ導く立役者だ。

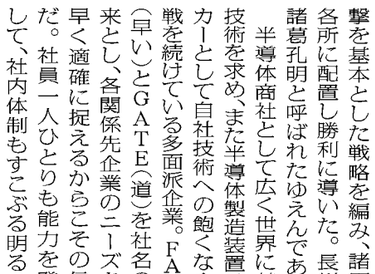


明光電子㈱

代表取締役　十川　正明　氏
神奈川県横浜市港北区新横浜3・18・9

後藤象二郎（ごとうしょうじろう）は坂本龍馬と中岡慎太郎に海援隊、陸援隊を任せるとともに、脱藩の罪を赦して藩政への全面的な協力を求めた。長崎から京に向かう船中で龍馬が近代民主主義国家の基本理念となる『船中八策』を起草。これを後藤が容堂に進言し藩論として仕上げ大政奉還実現に寄与した。

半導体・電子部品の統合商社として、世界トップクラスである日本の電子技術者達に頼りにされる存在だ。ワンストップソリューションを実現するネットワークを築き、全国に『早く・広く・深いサービス』を提供している。その基本理念となるのは強い使命感であり、新しい時代を見据えた洞察力の鍛錬に余念がない。

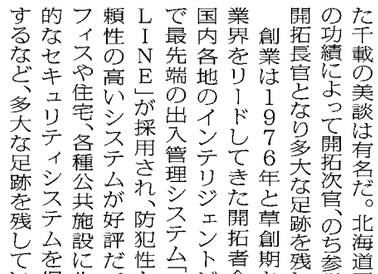


ライトハウス国際特許事務所

代表弁理士　田村　良介　氏
東京都千代田区神田神保町1・41・3

阿部正弘（あべまさひろ）は勝海舟、江川太郎左衛門などの人材を登用、大船の建造を許可し、品川沖にお台場を築き「天下武備の根元は旗本の兵備にあり」と喝破した青年老中。時の流れを見極め、事務的な才腕に富み、学識も深く、この時期の老中として最高級の評価を与えられた英傑のひとりだ。

特許（主に化学関連、ソフトウェア関連）に関する出願手続、中間手続等を取り扱うエキスパート。単に特許明細書等の特許庁への出願書類を作成するのではなく、クライアント企業の発展を特許の側面から支援するビジネスパートナーだ。時の流れを見極め、事務的な才腕に富み着実な信用実績に結びつけている。

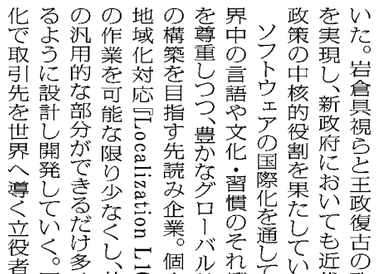


㈱橘

代表取締役　倉持　泰之　氏
東京都渋谷区代々木3・26・2

藤田東湖（ふじたとうこ）は〝烈公〟水戸藩主・斉昭を補佐した尊攘派の賢才。天保の藩政改革、藩校弘道館建設を推進し、また後期水戸学の原典となる『弘道館記述義』を著すなど、幕末動乱期にあってその思想は西郷隆盛、大久保一蔵ら他藩の人材をも魅きつけた。人間力にも長けていた証明である。

食事付学生会館を首都圏で9か所運営、地方出身者の学生生活をサポートしている。食材にこだわり国内農産物を使用、安全面・健康面に配慮した会館として認知度が向上した。管理責任者が夫婦で住み込み、朝夕の食事を手づくりしてくれるとあって、我が子を送り出す親を魅きつける安心の存在といえよう。

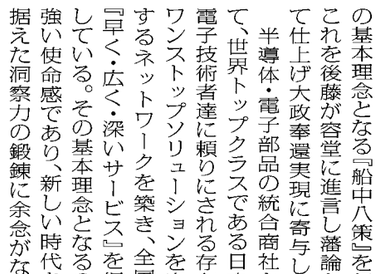


オー・エイ・エス㈱

代表取締役社長　富田　裕行　氏
東京都千代田区神田淡路町2・105

五代友厚（ごだいともあつ）は十三歳で世界地図を模写、また地球儀を自作するなど、その才は少年期から際立っていた異色の薩摩藩士。上海渡航の折は藩のために汽船を購入、その後欧州各国を視察し、海外事情に通暁した。維新後は官界から実業界に転身、大阪経済の再建に尽力しその地位を固めた。

1974年の設立以来、専門スキルと技術力を融合させたソフトウェア開発事業を主軸に伸展するプロ集団。豊富な人材を擁し、様々な分野へのサービス提供に尽力したことでその地位を固めた。この3月にはICTサービスの強化充実のため新事務所へ移転、第二の創業ともとらえ社員の士気も向上している。

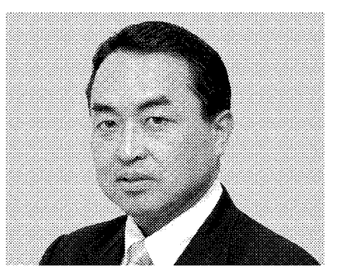


㈱龍泉堂

代表取締役社長　塩島　由晃　氏
東京都豊島区西池袋1・5・3

伊藤博文（いとうひろぶみ）は貧農から日本の初代総理大臣、公爵まで位人臣を極めた明治のリーダー。若い頃は高杉晋作や桂小五郎とともに攘夷運動に奔走したが、イギリス留学で汽車、工場など世界の情勢を知り、長州という藩単位ではなく、日本という国単位でものごとを考えるようになった。

創業以来「薬になる食物」の発掘に努め、これまで多くの栄養補助食品（健康食品）を世に出してきた業界俊英。なかでもタマネギエキス加工食品は、医療や栄養の専門家の間でも高い評価を得ている逸品だ。東洋では古来、食を上薬とし、健康長寿の条件の第一に挙げているだけにその将来性に期待は大きい。

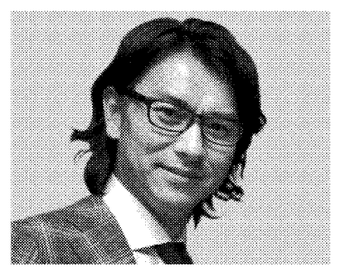


㈱シュタール ジャパン

代表取締役社長　菊池　勝　氏
東京都港区芝3・14・13

西郷従道（さいごうつぐみち）は西郷隆盛の実弟で「鷹の立つや睡るが如く、虎の行くや病みに似たり」と称された。大事を成す者は自然体でいながら、常に内を研ぎ澄ましているの意味だ。西郷兄弟の中でひとり政府に残り、維新後は海軍大臣、内務大臣などを歴任。晩年まで薩摩閥の元老として重きをなした。

スイス本社を始め31カ国に拠点をもつ「シュタール」グループの日本市場深耕。技術翻訳、多言語翻訳、DTPなど、技術情報マネージメントサービスを通じて、企業の国際化を支援している。社員一人ひとりが業界と言語に精通したプロフェッショナル集団であり、研ぎ澄まされたその知識、スキルは極めつきだ。

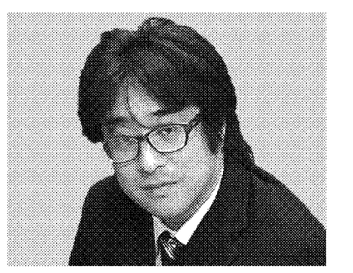


㈱LDKホーム

代表取締役　吉川　敦行　氏
東京都港区北青山3・9・8

小栗忠順（おぐりただまさ）は幕府開明派の幹部として陸軍奉行、軍艦奉行、勘定奉行の要職を歴任。財政改革からフランス式軍制の導入まで、没落の一途をたどる幕府権力の屋台骨を一人で支えた。ただひたすら徳川への忠誠と、新しい時代に即応するための先見を併せ持っていた幕府屈指の人材だ。

単なる「設計事務所」ではない「プロデュース」の観点にこだわり続けるプロフェッショナル集団。独特の家づくり哲学を反映させた住宅の近未来創造に余念がない。家づくりのコンセプトに従い、土地探し、銀行ローンの提案、建築工法選択、建築設計、構造計算から家具のコーディネートまで、業界屈指の先進だ。

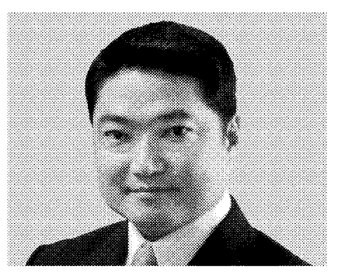


㈱グローバルシンキング

代表取締役　園部　英昭　氏
東京都豊島区東池袋3・9・12

山縣有朋（やまがたありとも）は少年期から槍術に励み、「槍の小助」とも呼ばれた。松下村塾に学び、松陰の「飛耳長目策」の手足となって京都情勢を視察。同門の高杉晋作が奇兵隊を創設すると軍監として隊を掌握し、長州藩での地歩を固めた。維新後は総理大臣に就任するなど、長州系最大の長老となった。

サーバー構築やネットワーク構築といったIT系インフラ構築を中心に、各種IT系サービスを提供している技術者集団。現代社会の飛耳長目策（IT）の手足となって、コンサルテーション、設計から構築、運用管理・改善までをワンストップで提供。「会社は一人ひとりの社員が主役」という指針が成長の原動力だ。



㈱イーエフピーサービス

代表取締役社長　津曲　巌　氏
東京都中央区日本橋堀留町1・7・7

久坂玄瑞（くさかげんずい）は高杉晋作、入江九一とともに松下村塾の三高弟といわれ、松陰も防長第一の俊才と注目して自分の実妹と結婚させた。その情熱的、純粋な志の持ち主であったがゆえに、「禁門の変」を引き起こし先陣に立った。伝統的・古典的な尊王攘夷派の代表格であり好漢である。

ライフプランセミナーやマネーセミナー等を通じて、難しく感じられがちな保険をわかりやすく情報提供しているスペシャリスト集団。相談者やユーザーの立場に立っての、キメ細やかで誠実な対応には定評のあるところだ。また営業マン教育、企業の売れる仕組み研修講師や売上アップセミナーでも評価高い。